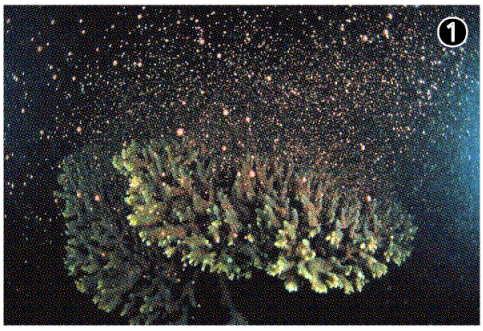

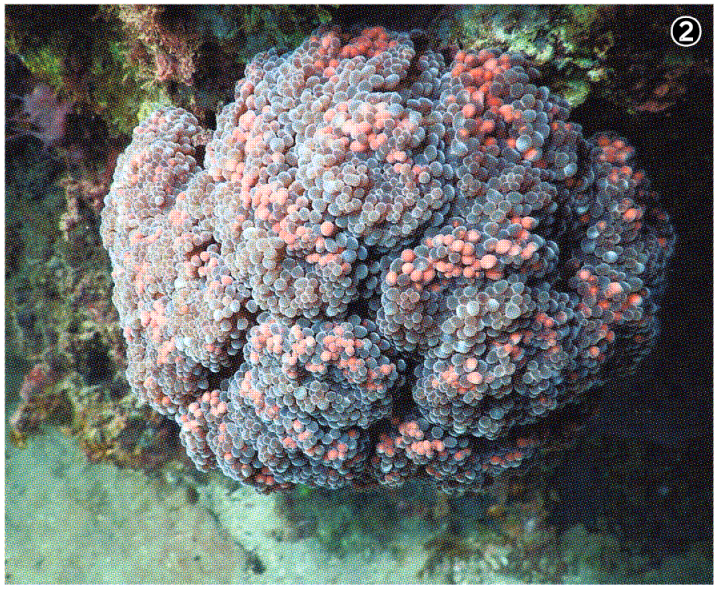

❶一般的なサンゴの産卵。丸い粒は幼生ではなく卵と精子のかたまり❷タネガシマハナサンゴの雌。オレンジ色に見える部分に幼生が入っています❸雌の触手の中で動き回る幼生❹「日本産有藻性サンゴ類ＷＥＢ図鑑」のタネガシマハナサンゴに関するページ

タネガシマハナサンゴ「島の宝」誇れる名に

鉄砲伝来の地・種子島は、宇宙センター、日本で一番早く収穫されるお米、国内最大といわれるソテツなど、たくさんの宝を持つ美しい島です。

宝は海の中にもあります。１９９０年に種子島の固有種と認められた「タネガシマハナサンゴ」です。現在は屋久島や台湾でも見つかっていますが、まだまだ確認例は多くありません。

雌が体内受精して幼生を産むという、サンゴでは少数派の方法で繁殖します。幼生はあまり泳ぎ回らないため分布が広がりにくく、現存するサンゴで最も絶滅の危険性が高いとされています。でも図鑑やインターネットで調べても、タネガシマハナサンゴの名前は見つけにくいかもしれません。

なぜならこのサンゴには当初、ハナサンゴによく似た別の種として「ハナサンゴモドキ」という標準和名が付けられていたからです。標準和名とは、世界共通の名前「学名」の代わりに日本で使われる名前のことです。「もどき（偽物）」扱いなんて残念ですよね。島の宝として誇れる名に変更されることは、地元の人たちの願いでした。

研究が進んでハナサンゴの仲間は二つのグループに分けられることになりました。ハナサンゴモドキは当初ハナサンゴと同じグループに分類されていましたが、日本造礁サンゴ分類研究会によって昨年見直され、学名変更に合わせて、標準和名もタネガシマハナサンゴへと改められました。

島の玄関口・西之表港では現在、大規模な工事計画が進んでいます。埋め立て予定地では多くのタネガシマハナサンゴが見つかっており、島の宝を守るため、移植作業に取り組んでいます。（学習交流係長・出羽尚子）